

◎知識として・教養として・心の糧として◎

宗教がわかる事典

大島宏之・著

日本実業出版社

ア 悪魔²⁹³阿含宗²³²阿弥陀仏・薬師如来⁹⁸アルラーの神¹⁴⁹イエス・キリストの教え¹²⁸イエス・キリストの笑いと涙¹⁷⁹イエズス会・ドミニコ会¹³⁴家のまつり²⁰⁷イスラーム教¹⁴⁵イスラームの祈り¹⁷⁶イスラームのウンマ¹⁵⁴イスラームの喜捨¹⁶¹イスラームの諸宗派¹⁵⁵イスラームの信仰告白¹⁵⁸イスラームの断食¹⁶⁰イスラームの礼拝¹⁵⁹イスラームの六信と五行¹⁵⁷異端と異教¹⁸⁰—神教と絶対神⁴¹—神教と多神教⁸⁴—燈園²⁷—夫多妻制¹⁶⁸いのちの電話・ダイヤル法話²⁸いろは歌¹⁷⁸いわしの頭¹⁸⁰印契のいろうる¹⁸⁶飲酒の戒¹⁷⁰インド教・バラモン教²⁴⁴ヴィシュヌ神とシヴァ神²⁴⁵氏神と氏子²⁰⁵氏子・檀家・会員⁹²英国教会¹³⁷エホバの証人²²⁹エルサレム神殿の盛衰²⁴¹円仏教²⁵⁵大本²²⁶おたきあげ⁴⁶お遍路さん²⁷²おまじない・不老長寿・占い²⁴⁷お祀り込み²⁶⁵

カ 回教・マホメット教¹⁴⁸開祖と宗祖・教祖⁸³科学と宗教⁸⁸隠れキリシタン¹⁴¹加護と試練¹²⁶鎌倉仏教の祖師たち¹⁰⁹神棚・神符・守札²⁰⁷神棚と仏壇⁴¹神と仏³⁸願望成就の神²⁷¹奇跡・神通力・超能力¹⁶⁹日約聖書¹²⁷日約聖書のことば¹⁶⁴教皇選挙コンクラーベ¹⁸⁴行事と儀礼⁸⁷教団紙と機関誌²⁶⁵教団と信者⁹²教団と選挙²⁷⁶教団の財政⁴⁵教団の象徴²⁶⁷教団のシンボルマークあれこれ²⁶⁷教団の成立¹⁰⁰教団の設立⁹⁰經典の成立¹⁰²ギリシャ正教とロシア正教¹³⁶キリスト教¹²³宮司と神官¹⁹⁹鳩摩羅什¹⁰⁴解脱会²¹⁴結婚と離婚¹⁷⁴献金とお布施⁴⁴現世と来世²⁸⁹現世利益とは²⁶²原理研究会²⁵⁶公会議¹³²高級な宗教と下級な宗教⁴⁸ご法座・お取次ぎ²⁶³これからの社会と宗教⁵²五連合会と

サン 最後の審判²⁸⁹祭祀と神々¹⁹⁸最澄と空海¹⁰⁸西遊記と玄奘¹²⁸日本宗教連盟⁹¹金光教²²⁵法師¹⁰⁴座禅の作法と効用¹⁷⁷懺悔と告解²⁹¹山上の垂訓¹²⁸三法印・六波羅蜜¹⁰¹シーア派¹⁵⁶G・I・A 神理の会²³⁰死をむかえる心²⁹⁰此岸と彼岸²⁸⁸シク教²⁵⁰四国八十八札所²⁷²四書・六経²⁴⁹死生観の相違¹⁷³地藏信仰²⁷⁰ジャイナ教²⁵³社会主義と宗教³⁰⁰釈迦如来・阿弥陀如来¹¹³釈迦牟尼仏・ブッダ⁹⁸釈尊・ゴータマ⁹⁹釈尊のことば⁵⁶社殿の建築様式²⁰²シャーマン²⁶⁶シャリーア¹⁵³主イエスの祈り¹⁷⁵宗教改革¹³⁵宗教人口⁶⁰宗教政党²⁷⁸宗教戦争¹⁸³宗教的迫害¹⁸⁰宗教と信仰³⁰宗教と政治²⁷⁷宗教とは⁸²宗教の危機²⁹⁹宗教の効用³³宗教の事業経営⁷⁵宗教の将来⁶⁸宗教の目的⁶³宗教の役割りと責任⁷¹宗教連合体⁹¹・字架と聖なる死¹²⁹十字軍¹³³十字軍・農民戦争・三十年戦争¹⁸³修道院・修道会¹³⁴周辺に神々²⁶⁹儒教・孔子と儒学²⁴⁸数珠・念珠¹⁷²出家と在家²⁸⁵主の復活の日³⁹上座部¹¹⁵小乗と乗¹¹⁵浄土宗と浄土真宗¹¹¹松緑神道大和山²²⁸諸行無常¹⁰¹食物のタブー¹⁷¹信教の自由⁹⁰信心と年齢⁵³神社建築²⁰¹神社信仰¹⁹⁶神社神道と教派神道¹⁹⁵神社本庁と伊勢神宮¹⁹⁵新宗教課題²³⁴新宗教の系譜²¹³信者としての基本修行²⁶⁵神職と社格¹⁹⁹新新宗教²³⁵神道とは¹⁹⁴神

●知識として・教養として・心の糧として●

宗教がわかる事典

大島宏之著

日本実業出版社

大島 宏之（おおしま ひろゆき）

昭和12年東京生まれ。現在、世界宗教者平和
会議日本委員会事務次長、東洋大学東洋学研
究所員を務める。専攻は仏教学と日本の新宗
教。

主な著書に『青年と新宗教』（自由国民社）、
『世界の宗教と経典総解説』（共著、自由国民
社）がある。

知識として 心の糧として
教養として

宗教がわかる事典

定価 1300 円

昭和59年2月10日 初版発行

昭和59年2月29日 第2刷発行

著 者 大 島 宏 之

発行者 中 村 進

発行所 株式 日本実業出版社
会社

書籍出版部 東京都文京区本郷3丁目2番12号 ☎ 113

☎ 代表 03 (814) 5161 振替 東京 7-25349

本社 大阪市北区西天満6丁目8番1号 ☎ 530

☎ 代表 06 (362) 6141

印刷所 壮光舎印刷株式会社

製本所 大 洋 社 製 本 所

落丁、乱丁本はお取替え致します

© H. Oshima 1984. Printed in JAPAN

ISBN 4-534-00912-7 C0014 ㊦1300E

はじめに

宗教の世界といっても、一般と隔絶された世界というわけではありません。しかし、一般的な世界からすると、テレビの料理番組のようで、形や材料、色や仕上り具合などの外見はわかりますが、中味に属する匂いや味わいなどの肝心かなめの部分を知ることができません。

そこでさまざまな^{つて}伝手を求めて宗教を知ろうとするのですが、これもやさしいようで、むずかしいものがあります。なぜでしょうか。答えは簡単です。需要と供給のアンバランスによって供給が少ないからです。

読者は、「そんなばかなことが」と思うかも知れません。宗教人口が日本の総人口をはるかに超えているわけですから。ところがそれら宗教人口の構成員は、自らの信仰には熱心ですが、一般的な意味での宗教を知るということには、あまり熱意をしめさないのです。家庭料理の好きな亭主のように、外食を好まないからです。

そこで、一般の読者の要求を充たすために書いたのが本書です。

では、本書によってどのような要求が充たされるのでしょうか。まず一番は、専門知識がなくとも、宗教のことがわかるということです。次いで広く客観的に、そして必要で肝心なことがわかるということです。ですから、読者が必要と思う事柄を、自由に読み取ってください。もちろん、本書ですべてこと足れりなどとは思っていません。本書を足場にして、目的地に

赴いてください。

今日、宗教は人々に大きな関心を持たれています。それは、現在が不安な時代であるとともに、人間関係のストレスがますます嵩じてきている時だからです。ですから、宗教という資源を採掘して活用し、自らの人生の活性化に役立てていただきたいと思っています。

宗教の世界は非常にふところの広い世界です。したがって、人生百般あらゆる分野にわたって、入り口が設けられています。どの入り口からでも入ることが可能です。また直接、宗教教団の門を叩いて信仰の世界を体験したいが、ちゅうちょを感じずと思う方は、思いのほか門戸が広く開かれていることを知ってほしいと思います。

参禅・水行修行・靈山参拝・法話を聞く会・写経の会・遍路・靈場巡拝・祭り・人生相談など……。その気にさえなれば参加することはむしろ楽しいことではありません。どうぞ最寄りの道から入って見てください。そうすれば、なお一層人生が豊かになります。

最後になりましたが、執筆に当り参考にさせていただいた諸先輩、取材や資料提供にご協力くださった諸氏に衷心より感謝申し上げます。

昭和五十九年一月九日

著者

この本の 特色と使い方

この本は、広い範囲の宗教をとり上げて、知識と本質に迫ろうとしました。通してお読みいただければ、あなたには一通り以上の宗教の教養が身につきますし、取りあえず、必要なところだけ読んでもすぐに役に立ちます。あなたなりの読み方を工夫してお使いください。

【読み方・その1】まず1章の26のQについて自分で答えてみる法

これまで「宗教」について考えたことのある人は多くはないでしょう。宗教の勉強をした人はきわめて少ないでしょう。けれども、ほとんどの人は、いつか宗教に関心を持ち、信仰をよるべとして生きています。26の疑問は、私たちが宗教についてわからない点、知りたいことなど、ごく素朴な事柄ばかりです。そこで本文を読む前に、自分はどう思う、こう考えていると頭の中で答えてみる——多くのQに答えられた人は、宗教の本質についてかなりわかっている人ですから、あとは必要に応じて各章から知識を得ればよいでしょう。

一方、どのQにもろくに答えられなかった人は、広範な宗教知識をいろいろ身につけることよりも「宗教とは何か」「自分の人生にどう関わるものか」といった本質的なアプローチが必要です。こういう人には、通読をおすすめします。

【読み方・その2】知識の本、哲学の本、人生の本としての読み方

世界にはいろいろな宗教があり、四十何億もの人間がそれぞれに自分の信仰や宗教を持っています。日本にも多くの宗教があり、多様な宗派が活動しています。新聞やテレビを見れば、おなじみのものから聞いたこともないようなもので、さまざまな宗教が顔をのぞかせています。それだけ世界が狭くなり、世の中が複雑になってきているということでしょう。

これからは「宗教」の知識と理解なしには世の中の動きがわからなくなります。政治経済をはじめ、文学、美術にいたるまで、人が生きる行動のすべてに宗教が大きく深く関わっているからです。

世の中は今、科学技術化と国際化という二つの大きな潮流に乗っています。わが国では、かつてない高齢化が進んでいます。折から、二十世紀末も近づいています。これからは「宗教の季節」ともいえます。人間がかつてないくらい宗教を必要とし、宗教を理解することが大切になると思うのです。したがってこの本は、雑学的な話のタネとして、教養として、また自己を見つめるよすがとして、多様にお読みください。

【読み方・その3】用語事典として利用する法

文字通り、事典として、ニュースや読書で登場してきた宗教用語を折にふれて調べてください。目次はもちろん、カバーに印刷した索引がお役に立ちます。

宗教がわかる事典——目次

1

* * * まず宗教に関する26の素朴な疑問

- Q & A 1 宗教と信仰は同じか、ちがうのか……………30
- Q & A 2 先祖を敬うのは、すなわち宗教か……………31
- Q & A 3 宗教（信仰）を持つとはどういうことか……………32
- Q & A 4 宗教を持てばどうなるのか、持たなければ……………33
- Q & A 5 宗教は人間にとって必須のものなのか……………34
- Q & A 6 宗教は人間に何をもたらすことができるのか……………35
- Q & A 7 世界にはどんな宗教が、どれくらいあるのか……………36
- Q & A 8 世界の三大宗教とはどんなものか……………37
- Q & A 9 神と仏はどこがちがうのか、同じなのか……………38
- Q & A 10 仏教とキリスト教の差異はどこにあるのか……………39
- Q & A 11 神仏はどこにいるのか……………40
- Q & A 12 複数の神仏を信じるとどうなるのか……………41

Q & A	13	バチ、タタリ、ノロイ、靈験、加護、ご利益とは……………	42
Q & A	14	日本人に無宗教者が多いのはなぜか……………	43
Q & A	15	宗教はお金がかかるものか、貧乏人でもいいのか……………	44
Q & A	16	三大宗教のふところ具合は、教団が富裕なのはなぜか……………	45
Q & A	17	宗教は入信したりやめたり簡単にできるのか……………	46
Q & A	18	伝統宗教と新宗教はどちらがご利益があるのか……………	47
Q & A	19	高級な宗教と下級な宗教という差はあるのか……………	48
Q & A	20	いま宗教人口は増えているのか、減っているのか……………	49
Q & A	21	最近のニュースに出てくる宗教はどのようなものか……………	50
Q & A	22	宗教が社会を動かした例にはどんなケースがあるか……………	51
Q & A	23	科学時代、国際化社会における宗教の役割は……………	52
Q & A	24	信仰に適齢期はあるのか……………	53
Q & A	25	宗教ブーム、オカルトブームといわれるのはなぜか……………	54

● 宗教KEY WORD * 釈尊のことば (経典の名句) ... 56

2 * * * いま、宗教は.....

宗教人口	日本の宗教人口は二億人	宗教人口ほどつかみにくいデータはない。ますますさまざまな面から宗教人口の実情を見よう。	60
宗教の目的	宗教に求めるものは何か	古今東西、宗教は人間と共にある。では、宗教の目的は何か、人は宗教に何を求めるのか。	63
伝統と新興	伝統宗教と新宗教の角逐	今日隆盛している新宗教。だが、初期の頃には社会と伝統宗教から大きな試験を受けた。	65
宗教の将来	これからの宗教	科学の時代、かつてない未踏社会に人類は向かっている。その中で宗教が果たす役割は――。	68
社会と宗教	宗教の社会的役割と責任とは	ますます複雑化、混迷化する現代社会において、宗教はいったい何をすることができるのか。	71
平和運動	軍縮キャンペーンと難民救済	今日の宗教は本堂に静坐してはいない。世界平和に働きかける宗教の動きを見る。	72
事業経営	多角化する宗教の事業経営	幼稚園、病院は序の口。今日の宗教法人は、一面で多角経営を展開する企業に似ている。	75

宗教情勢 きびしい世界の宗教環境

温室的で刺激が少ないわが国の宗教環境。だが、世界の宗教情勢はきわめてホットでタイト。

76

靖国神社 靖国神社は宗教か否か

いろいろな議論がかわされる靖国神社法案と閣僚の公式参拝。その問題点を整理すると……。

77

●宗教KEY WORD * 教祖のことば (諸新宗教の教祖) …… 78

3

*** 宗教の枠組みを知る章

宗教とは まだ宗教の完全な定義はない

拝むこと、信ずること——いずれも宗教の一面ではあってもすべてではない。宗教とは。

82

開祖と宗祖 どちらがえらい開祖と宗祖

開祖、教祖、宗祖——ことばの混乱が、あたかも池に映った月を拝むような誤りをもたらす。

83

神と仏 神と仏の素姓、正体は……

何となくちがうような、同じような神と仏。まず、両者の素姓、正体、居所を見てみると……。

84

地域性 世界宗教と民族宗教はどうちがう

世界には各種の宗教が共存している。対照的な世界宗教と民族宗教を比較してみよう——。

85

先祖供養 先祖供養にあつい日本人

日本人は死者の年忌を熱心に行なう。いついつまでも追善供養をする私たちの考え方は……。

86

行事と儀礼 宗教行事の目的と意味は

宗教には形式的でわずらわしい儀礼がつきもの。それらに一体どのような意味があるのか。

87

宗教と科学 宗教と科学が接近する現代

かつて対極に位置するかに思われていた科学と宗教は、いま、互いに接近し共存しようとする。

88

無神論

無神論と無神論者にもいろいろある

無神論にもいろいろある。時代と状況の中でのその形を見ながら、現代の無神論を考える。

89

教団の設立 宗教団体は誰にでもつくれる

宗教の教団をつくるのは簡単、三つの条件を満たせば誰にでもつくれる。その三つとは。

90

宗教連合体 どんな宗教連合体があるか

複雑多様な宗教界にも業界団体がある。日本の主要な宗教連合体を一望してみると――。

91

教団と信者 信者や会員の程度はどんなもの

氏子、会員、訪友と信者に数えられる側の名称も形態もさまざま。教団と信者の関係は――。

92

入信の動機 なぜ、あなたは入信したのか？

悩みがあるが、相談相手がいない。こうした人に、手を差し伸べる新宗教に人が集まる。

93

●宗教KEY WORD * 宗祖のことば (日蓮) … 94

4 *** 仏教のことがわかる章

仏とは 仏さまって誰のこと

仏教では誰でも仏になれる。だから仏さまにもいろいろあるが、やはり総代はお釈迦さま。

98

お釈迦さま 釈尊八十年の生涯

人生に悩む釈尊は、六年間の苦行のすえ、ついに菩提樹の下に端座して悟りを開いた。

99

教団の成立	教団はどのように成立したのか	悟りを開いた釈尊は鹿野苑に赴いて、仲間五人を弟子にした。仏教教団の成立である。	100
根本の教え	仏教の教えの根本は何か	この世の真理を正しくつかみ、欲にとらわれた心を取りされば静かな境地が訪れる。	101
經典の成立	弟子の放言から編まれた經典	当初、聖典はすべて記憶すべきものであり、紙に書き留めることは邪道であったが……。	102
仏教の発展	慈悲と実践を説く大乘仏教	釈尊に発した仏教はその後分裂、部派に分かれたの小乗仏教時代をへて大乘仏教に至る。	103
中国の仏教1	中国仏教二千年の流れ	「西遊記」は中国仏教中興の物語。十七年を費してインドから多くの経論がもたらされた。	104
中国の仏教2	中国仏教三つの特徴	中国の仏教は鳩摩羅什、玄奘らによるぼう大な訳経作業のうえに花ひらいた。	105
ラマ教	ラマ教はチベットの仏教	ラマ教のラマとは、真理の伝達者。「大海」の尊称を受けるダライ・ラマは法王にして君主。	106
仏教の伝来	仏教伝来が生じた波紋	外来の仏をめぐって大和朝廷は真つ二つ。推古天皇、聖徳太子を得て日本は仏教の時代に……。	107
各宗の祖師1	平安仏教から鎌倉仏教へ	最澄と空海、法然、親鸞、日蓮、一遍、栄西、道元……祖師たちがキラ星のように輩出した。	108
各宗の祖師2	法然、親鸞、日蓮そして道元	今日なお仏教界の巨人である鎌倉仏教の祖師たち。その個性ゆたかなプロフィールを見る。	109
仏教の宗派	いろいろある宗派とは何か	多くの宗派が花盛りの仏教界。だが、それはちようど月を通して太陽を見る日蝕に似ている。	110
主な宗派	各宗派はどんな特徴があるのか	仏教にはそれぞれ伝統を持つ有力宗派がある。ひとつくち解説的にその差異をのべてみると。	111

主な經典	經典にはどんなものがあるのか	法句經、般若經、法華經、華嚴經など、重要なつボビュラーな經典のインスタンツト知識。	112
仏教の諸仏	仏サマそれぞれの専門は？	仏サマや菩薩にもいろいろあつて迷ふもの。で、その素姓と役割分担を紹介してみると――。	113
小乗と大乘	小乗仏教と大乘仏教はどうちがう	上座部仏教が形式化に流れるにつれ、釈尊の精神を受けつこうという大乘仏教があらわれた。	115
仏教の危機	大乘非仏説と廃仏毀釈とは	日本における仏教の歴史をみると、その歩みは平坦ではない。その試験の過程をみると――。	116
檀家制度	寺院と信徒のユニークな関係	幕府は民衆を寺院に所屬させる制度を管理に利用した。これが寺の安定をもたらしが……。形式がくずれつつある仏教の中で、正統派を任ずる小乗仏教はともかく戒律を守っている。	117
現代の仏教1	東南アジアの小乗仏教	憲法で保障され宗教活動に安定がもどつた中国では、いま新たな仏教が再構築されている。	118
現代の仏教2	変わる中国の宗教事情	近ごろ美容と健康的関心から人気のあるヨーガだが、ヨーガ本来の姿は心の修養にある。	119
現代の仏教3	人気のヨーガも仏教	科学を手にして、21世紀へ突入しようとする今日、なぜか密教ブーム。その魅力をさぐる。	120
密教	神秘と呪性が匂う密教		121

5

*** キリスト教のことがわかる章

父なる神	ヤハウェとキリスト	旧約聖書におけるヤハウェが主なる神なら、新約聖書におけるキリストは神の子。	126
旧約聖書	旧約聖書とはどういうものか	旧約聖書は神のおきて、その律法には天地創造、十戒など有名な話がぎっしり。	127
キリスト	イエス・キリストの教え	「汝の敵を愛せ」「右の頬を打てば左の頬を……」山上の垂訓には有名な教えがいっぱい。	128
十字架	十字架に秘められた三つの意味	キリスト教の象徴は十字架。イエスの「聖なる死」にはどのような意味がこめられているのか。	129
新約聖書	新約聖書とはどういうものか	キリストの教いに関する聖なる書物が新約聖書。その福音書には神の国の幸福の音信がある。	130
ローマ教皇	法王とはどんな人	キリスト教世界の頂点に立つ聖職ローマ教皇は、責任の重さに加えて世界一のオイソガ氏。	131
公会議	百年に一度の司教たちの世界会議	キリスト教の巨大組織において全世界の司教が集まる公会議は教皇が召集する。	132
十字軍	政治パワーに変わった十字軍	宗教と戦争、対極にあるこの二つが結びついたかに見える十字軍とは何だったのか。	133
修道制	修道院、修道会にもいろいろある	イエズス会、ドミニコ会など、戒律を守る禁欲生活の中で修道士の宗教活動は続く。	134
宗教改革	キリスト教の堕落が生んだ新派	マルティン・ルターが「聖書にかえれ」と叫んで以来、新派であるプロテスタントが誕生した。	135

東方正教会	ギリシャ正教とロシア正教	ソビエトはじめ東欧諸国に有力な東方教会。神秘のにおいを漂わせるロシア正教とは。	136
諸宗派	プロテスタントの諸派	プロテスタント諸派は福音ルーテル教会、改革派教会、バプテスト教会、救世軍と多彩。	137
バチカン	最小の独立国、最大の宗教組織	カトリック教会の本拠地は法王庁のあるバチカン市国。バチカンは法王主権の国家である。	138
洗礼の意味	洗礼の儀式はどうやるのか	キリスト教の信徒として入信する儀式が洗礼。その方法には浸礼と滴礼がある。	139
主日の礼拝	礼拝と聖餐の意味は	日曜ことの礼拝と聖餐はキリスト教の主要行事。信仰生活はこれを中心に営まれていく。	140
日本の場合	ザビエル、踏み絵、そして今日	隠れキリシタンの時代から、さまざまな困難をしのいできた日本のキリスト教徒は今百万人。	141
修道院	神と共に暮らすトラピスト修道院	神に祈り、神と共に暮らすトラピストの修道士。それはいったいどのような毎日なのか。	142
新しい方向	開かれたキリスト教とは	パウロ六世の第二バチカン公会議以来、キリスト教は新しい方向をめざして動きつつある。	143

● 宗教KEY WORD * 新約聖書のことば : 144